



生活
文化

80
まいん

しさがしましょうてんがいあと 四阪島商店街跡



四阪島商店街跡

しさがしましょうてんがい 四阪島商店街

は、美濃島の中央に位置し、約100メートルの距離にわたり、道の両側にさまざまな商店などがぎっしりと軒をつらね『四阪銀座通り』とも呼ばれていました。



索道鉄柱(大正10年3月完成)

索道を利用して海より配給用の物資を荷揚げしていた

配給所だったところと比べると、店内の改装や配置など、近代感覚を取り入れ、特に金券による掛売制度、営業時間の延長などが好評でした。

また、主婦の声から要望されていた美容部も魚菜売場を改装し開設されました。



島一番の賑わい
四阪銀座通り

配給所内の様子

撮影年不詳

別子銅山記念館所蔵

日用雑貨や小間物をはじめとして、肉屋、魚屋、豆腐製造店、衣料品、菓子屋、うどん屋、酒屋、調味料店、果物屋、釣用品店、理髪店など十数軒の商店が並び、生活に必要なものが全て揃っていました。

また、会社が直営していた配給所も設置され、白米、雑穀、砂糖、みそ、氷、呉服、足袋、肌着、煙草、文房具、化粧品、金物、陶器などが売られていました。

配給所が生活協同組合に変わったのは昭和34年(1959)年9月1日のことです。その開店当日は、開店1時間前から正門前に人々が集まり、開店と同時に店内に流れ込むという状態でした。



島内マラソン大会で商店街を駆け抜ける
昭和43年1月撮影 別子銅山記念館所蔵

